

## 会議録

会議名称	令和7年度第1回加古川市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和8年3月11日（水）午前9時55分から午前11時25分まで
開催場所	加古川市役所新館10階 大会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>中井玲子会長、花田真理子副会長（WEB）、坂田重隆委員、魚住信裕委員、藤原武彦委員、藤本淑子委員、竹裏由佳委員、森下徹委員、加藤朋子委員</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>田淵環境部長、福浦次長、山本参事、 福山環境政策課長、藤本脱炭素化推進担当課長、岩坂副課長、大谷循環型社会推進係長、山田 島崎環境第1課長、石澤副課長 岸本環境第2課長、芳本副課長、芝本尾上処理工場担当副課長 小山環境施設課長</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長、副会長の選出</p> <p>3 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 審議事項 市民アンケート（案）について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 報告事項 一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化目標の進捗状況について</p> <p>4 その他</p>
配布資料	<p>資料1 市民アンケート（案）</p> <p>資料2 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」関係資料</p> <p>資料3 兵庫県資源循環推進計画の概要</p> <p>資料4 燃やすごみ質組成調査結果</p> <p>資料5 ごみ減量・資源化目標の進捗状況関係資料</p> <p>参考資料 ① 加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例（抜粋）</p> <p>参考資料 ② 加古川市廃棄物減量等推進審議会規則</p>
傍聴者の数	0人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>環境部長あいさつ</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>&lt;委員出席状況&gt;</p> <p>審議会委員9名中全員出席</p> <p>4 会長、副会長の選出</p> <p>審議会規則第2条第1項、委員の互選により、会長に中井委員、副会長に花田委員が選出された。</p> <p>会長あいさつ</p> <p>5 審議事項</p> <p>市民アンケート（案）について</p>
(事務局)	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <p>市民アンケート（案）を基に概要説明</p> <p>資料2 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」関係資料</p> <p>資料3 兵庫県資源循環推進計画の概要</p> <p>資料4 燃やすごみ質組成調査結果</p>
(会長)	<p>資料1のアンケート案について、例えばこういう視点が抜けているのではないかなというようなことでご意見があれば発言をお願いしたい。設問が多くなりすぎると回答率が下がるということで、設問数を増やしすぎずに設問内容を工夫したいと事前に事務局から伺っている。</p>
(委員)	<p>プラスチックに関する設問は非常に詳しく設定されており、現行の基本計画の今後の方向性を確認するための慎重な取組であると思う。プラスチックは海洋で非常に問題となっており、例えば海洋プラスチックごみの量が魚の重量を超えたとの推計もなされており、市民にも広く認知されていると思われるため、このプラスチック問題が大変な問題なのだということを感じてもらうために、海洋プラスチックについて、プラスチック分別収集に関するアンケートの冒頭で少し言及されてはどうかと思う。それと、分別収集にかかるコストを示すことは重要だと思う。回収頻度が上がれば便利だが、その分増えるコストも税金から支払われてい</p>

	<p>る。こうした「見えにくいコスト」を市民に理解してもらい、協力によって減らすことができれば別の施策に充てることができることも伝えたいので、コストを示すことは大切だと思う。2点質問がある。1つはこのプラスチックに関しての設問の中で、以前アンケートで聞いた設問があれば比較ができるので教えていただきたい。2つ目は、問12のフードドライブについてである。スーパー等において常設コーナーを設置している事例も見受けられることから、「見たことがあるか」といった認知度に関する設問を加えてはどうか。また、食品ロス削減に関して、食べ残しの持ち帰りに対応する店舗が増えていると聞くが、こうした取組に関する設問を追加してはどうかと思う。</p>
(事務局)	<p>前回のアンケートで触れた設問についてだが、問16および問17は文章表現に若干の違いはあるものの、前回の設問と同内容のものとして挙げていたため、経年変化を把握することが可能であると考え。次に、フードドライブに関する「常設していることを知っているか」という設問は追加したいと思う。常設しているのはコープこうべ神吉店および但陽信用金庫の8店舗であることを把握している。</p>
(事務局)	<p>フードドライブについては、コープこうべや他の民間店舗において常設で実施されており、具体的にはイトーヨーカドーなどでも行われている。しかし、これは民間企業の努力によるものであり、市のアンケートに追加することは難しい側面がある。一方、行政としては、先ほどご説明したとおり、コープこうべや但陽信用金庫、様々な企業との連携協定に基づき、年2回、1週間弱の期間で集中的にPRを行い、フードドライブを実施している。この点については、設問の前提説明として触れることも可能であると考え。</p>
(委員)	<p>フードドライブについては、行政の取組を中心に聞いているということが分かった。</p>
(事務局)	<p>先ほど2点のご意見をいただき、コスト意識を市民に持ってもらうことの重要性を我々も認識している。令和9年度に一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを予定しており、それに向けて令和8年度にアンケートを実施し、令和9年度の本審議会において、委員の皆様へ今後の方向性について諮るといったスケジュールで考えている。予備知識なしに突然プラスチックごみの分別について尋ねられても、市民にとっては答えにくいであろうことを踏まえ、アンケートの設問において、市が考えるメリット・デメリットをあらかじめ掲載している。その中で、分別収集に係るコストについても意識してもらうことも目的の一つとしている。また、初めにご指摘いただいた海洋ごみへの言及に関しては、当初メリットの中に「海洋プラスチックごみが減る」と記載していたが削除した。理由は、燃やすごみとして燃やしているプラスチックごみが、分別収集することで、日本における海洋プラスチックごみの減少につながるという関係性を見出せなかったためであるが、海洋プラスチックごみが出るというのは、災害時に家庭から流出したプラスチックが川を通じて海に流れる場合や、モラルの低い行為によるポイ捨てが</p>

<p>(委員)</p>	<p>主な原因であると考えているからである。</p> <p>この点について、ご意見を賜りたく、またご教示いただければと思う。</p> <p>海洋ごみについてだが、万博会場において海洋ごみ削減をテーマとしたパビリオンを見学した際、来場者が展示を見ながら「このような状況だったのか」と率直な驚きを示し、海洋ごみを減らす必要性について多くの意見が出ていたことが印象的であった。このことから、海を大切にしようとする意識は多くの人々に共有されているものと感じたところである。一方で、プラスチックごみの分別方法は自治体ごとに大きく異なるため、万博会場においても「どのごみ箱に投入すべきか」が各自の居住自治体の分別ルールに依存し、結果として分別が円滑に行われていない場面も見受けられた。海洋ごみは関心を喚起しやすいキーワードであり、プラスチックごみ分別回収の実施が海洋ごみ削減への意識向上につながり、さらには不要なプラスチック容器や包装を受け取らないといった行動変容にも結びつく可能性があると考え。やや間接的ではあるものの、プラスチックの使用削減においては意識の醸成が大きな要素であるため、アンケート項目として盛り込む意義はあると考えるものである。また、メリット・デメリットについては、選択肢の数に差が生じる点はやむを得ないものの、メリットは「環境に良い」といった間接的な内容が中心となる一方で、デメリットは「手間がかかる」など、より直接的な負担として認識されやすい傾向にある。そのため、社会的なメリットが長期的には個人の利益にもつながることや、その重要性について、本アンケートを通じて理解を深めてもらうことが重要であり、その意味でも選択肢の設定は非常に重要であると考え。さらに、審議会冒頭の挨拶にあった2市2町によるカーボンフリー発電の取組についてであるが、発電燃料としてプラスチックがどの程度利用されているのか、また仮にプラスチックがすべて分別・資源化された場合に、発電用燃料が減少し、発電と分別のいずれを優先すべきかといった課題が生じる可能性はないのかについて、見解を伺いたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>海洋ごみに関する問題を訴えることが、市民の皆様の関心を引くキーワードであるということと、プラスチックごみを分別することがプラスチックのリデュースに繋がるということは非常によく分かった。問19のメリットの部分に、プラスチックごみを分別することによって海洋ごみ削減への意識が高まるといった選択肢を追加することを検討していきたい。</p> <p>2点目の、メリットというのは間接的で、デメリットは市民の手間が増えるなど直接的であるという指摘には非常に共感する。そのため、先ほども申し上げたように、このアンケートは、市民がどのように考えているかを把握する情報ツールとして活用し、本審議会で分別を実施すべきかどうかについて考えていきたい。発電については、2市2町の広域ごみ処理施設「エコクリーンピアはりま」におけるサーマルリサイクルの影響はゼロではないものの、同施設の発電電力が減少することを市民に理解してもらう必要は必ずしもないと考え</p>

	<p>る。むしろ、近隣の宝塚市では分別・選別に伴い約1億4,000万円のコストがかかっているほか、収集回数の増加によるコスト増も生じている。缶類であれば加古川市の収入になる部分もあるが、プラスチックごみは収入につながらず、コストが中心となる。このコスト意識についても、アンケートに回答いただく市民に認識してもらうことが重要であると考え。</p>
(委員)	<p>本日付の神戸新聞に、小型家電リサイクル法に基づくモバイルバッテリーの資源化の取組が掲載されていたが、これについては今後設問として追加する予定はあるのか。まずは廃食用油と廃プラスチックの回収についてのアンケートを先行して行うのか。併せて、廃食用油が航空機燃料に利用されるとのことであるが、船舶など他の燃料としての活用もしてはどうかと思うがいかがか。</p>
(事務局)	<p>モバイルバッテリーについては、昨今問題となっており、行政が分別の徹底を促し、事業者に責任を課すというのが、神戸新聞にも掲載された。我々としても分別の方法について検討する必要があるため、今回のアンケートに含めるべきと思う。プラスチック分別とは別の項目として扱いたい、設問数を抑えつつ、内容については調整したいと考えている。次に、航空機燃料の利用についてだが、船舶や自動車については、水素燃料や電気自動車の導入などさまざまな選択肢があるが、飛行機は途中で充電ができないため、水素や電気などの代替燃料に切り替えることが難しく、現状ではSAFに頼らざるを得ない状況ということもあり、SAFへの活用が非常に注目されている。そのため、廃食用油は航空機燃料を中心に活用する方針である。</p>
(委員)	<p>フードドライブについて、コープこうべでは常設している店舗もあるが、市民の方から提供頂いたものは、毎年2回、こども食堂などに提供している。ただ、活動について市民へ浸透していない部分もあるので、今後周知に関する取組も行っていきたいと考えている。</p>
(委員)	<p>プラスチックの分別収集に関するアンケートの問21では、「ごみの分別収集についてあなたはどのようにお考えですか」という設問に対し、「実施すべき」、「実施すべきでない」、「どちらともいえない」、の選択肢が設けられている。私も含め、一般の市民であれば「何かやった方がよい」と思うものの、実施すべきかどうかの判断がつかず、「どちらともいえない」と答える人が多いのではないかと考える。差し替え前のアンケートでは、「どちらともいえない」と回答した人に対して理由を問う設問があり、認知度の確認だけでなく、後から分析する際に非常に重要な部分と考える。また、なぜプラスチックの分別収集を行う必要があるのかを市民に伝えるため、アンケート冒頭の文章で、従来はプラスチックごみを焼却していたが、分別収集してリサイクルすることで、CO<sub>2</sub>削減や地球環境への配慮に大きな効果があること、手間やコストはかかるが、国や県の取り組みを踏まえ、加古川市としても様々なデメリットを理解した上で推進したいこと、反対意見も含め市民の意見を施策に反映したいこと、などに触れることを検討してはどうか。</p>

<p>(会長)</p>	<p>最初にご指摘いただいた設問については、事前に配布されたアンケートでは問 22 として「どちらともいえない」と答えた理由を問う設問が設けられており、分析に活用できるようになっていた。この項目を復活させることで、回答者の本音を深掘りできると考える。本音を把握できなければ、せっかくの優れた施策であっても、進める上での市民の納得感を得ることが難しくなるため、もっともな指摘であると思う。また、プラスチック分別収集に係るアンケートについても、冒頭で市としての姿勢やメッセージを明確に伝える必要があるとの指摘であった。ごみ問題は市民の協力なしには進められないため、市として「このような方針で進めたい」「市民の協力を得たい」ということを、明確なメッセージとして打ち出すことが重要であると考えられる、というご意見だと思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>2 点目のご質問について先にお答えすると、市としては現時点で分別することを決定しているわけではない。誤解のないよう申し添えると、分別収集の可否について中立的な立場で市民の方々の率直な意見を頂戴したいと考えている。そのため、忌憚のない回答が得られるよう、アンケート冒頭で当該趣旨を伝えることも検討していく。1 点目のご質問については、今回配布したアンケートの問 21 が該当するが、事務局としても悩ましい部分である。問 19、問 20、問 21 の順番をどうするかが課題といえる。問 21 では「分別収集を実施すべきか、すべきでないか、どちらともいえないか」を聞いているが、情報が全くない状態で尋ねると、多くの方は「どちらともいえない」と回答する可能性が高い。差し替え前の資料では、まず「分別すべきかどうか」を尋ねた上で、分別すべきと考える人にはメリット、分別すべきでないと考える人にはデメリットを、それぞれの理由として答えてもらう設問構成であった。また、「どちらともいえない」人には、メリット・デメリットについて挙げた選択肢の中から意見を伺う形になっていた。変更後のアンケート案では、事務局が想定するメリット・デメリットを全員に提示し、問 19 でメリット、問 20 でデメリットを確認した上で、問 21 で結論を出してもらう方式に変更している。ただし、委員の皆様のご意見として、前回の設問の順番の方が望ましいとの声が多い場合は、前回のアンケート案に戻すことも検討したい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>今の説明を聞いて、今回の設問の順番で問題ないと感じた。差し替え前のアンケートは「分別収集を実施すべき、すべきでない、どちらともいえない」の選択肢のところで、選択に悩んで時間がかかるという懸念があった。ということは、その部分が非常に重要なポイントなのではないかと思い、発言させていただいた。また、先ほどの説明から、プラスチックごみの分別収集について市としては現時点で「実施すべきか、実施すべきでないか」については白紙の状態であることも理解できた。</p>
<p>(会長)</p>	<p>市が「実施すべきか、実施すべきでないか」については中立的な立場である理由について伺ったところ、サーマルリサイクルの事情が関係しているとのことである。すなわち、プラスチックは熱源として利用されており、分別収集によって再</p>

	<p>利用されると熱源が減少し、発電計画に支障が生じる可能性があるため、市としても対応に苦慮しているという状況である。先ほどのアンケートの質問形式については、最終的に各人が考えた上で結論を出すスタイルになっており、「どちらともいえない」と回答した場合でも、問 21 までの文脈の中で該当する理由すべてに○をつける形式になっている。そのため、「どちらともいえない」を選択した理由を把握することができる。この点からも、非常によく考えられた結果であると感じており、私としてもこの形式で問題ないと思う。</p>
(委員)	<p>市民の立場からは、高齢などの理由でごみをごみステーションまで持っていけない方への配慮が必要である。できるだけ市民に負担をかけない方法での対応が大切で、例えば公民館に回収拠点を設けるなど、市民の負担を軽減しつつ運用できる方向性を期待する。</p>
(事務局)	<p>確かに高齢者の方がごみを持っていくことに大変さがあることは理解している。お配りしているアンケート案における、問 24 では週 2 回、週 1 回、月 2 回、月 1 回と選択肢がある。実際に分別することが決まれば検討する必要があるが、燃やすごみと資源物で異なるごみステーションに排出する場合、週 2 回か週 1 回の回収となると、回収場所は燃やすごみのごみステーションになるかと思うが、月 2 回、月 1 回となると資源物の回収場所になると思われる。燃やすごみのごみステーションに比べ、資源物の回収場所は少ないことから、住む場所によっては、自宅から遠い場所に持って行かなければならないというデメリットがある。問 24 において、週 2 回であれば燃やすごみの回収場所、月 2 回であれば資源ごみの回収場所を想定しているということを補足させていただくことを検討する。</p>
(委員)	<p>そもそも市民はごみカレンダーくらいしか見ておらず、自分の市町村のサービスを知っていない人や、知っているも週 2 回のごみ収集についてくらいしか知らない人が多いのではないかと思う。「さわやかごみ収集」や「おいくら」、「ジモティ」もホームページに掲載しているが、ホームページを見ない人は知らないと思う。そのため、ごみ全般の分別収集についての意見を把握することは大切だと思う。また、アンケートの実施対象を無作為で抽出するとのことだが、WEB 回答というのは何か送られてくるのか、QR コードを掲載して自由参加で行うのか。</p>
(事務局)	<p>アンケートは郵送し、回答後は切手不要で返送していただくか、QR コードも掲載するので、QR コードからインターネットで回答いただくということを考えている。</p>
(委員)	<p>もし自由参加でもいいのなら、母数は多い方がいいのかなという気もしている。</p>
(事務局)	<p>自由参加にしてしまうと、環境に非常に興味のある方からの回答が多くなってしまい、分別すべきという意見が大半になって、それが市民の総意になり得ないという危惧があるので、無作為抽出とさせていただいている。</p>
(委員)	<p>デメリットにおいて、付着している汚れを取り除くことが面倒だということもあるが、取り除くことによって使用する水の量が増えたり、水が汚れるのではないかということや、どこまできれいにしたらいいのか分からないといった側面もあ</p>

<p>(事務局)</p>	<p>る。プラスチックごみを捨てる日が限られていると、置いておく場所がないといった問題もあるのではと思う。</p> <p>おっしゃるとおり、プラスチックに付着した汚れを洗うことで多くの水を使用する場合があります、ご家庭によっては水道代が高くなる。また、加古川市においてはその水を供給するために電気を使用しており、結果としてCO<sub>2</sub>が排出されるという側面もある。さらに、分別収集や選別、再利用の過程でもコストやCO<sub>2</sub>の発生が避けられない。一方で、燃やすごみとして処理する場合はサーマルリサイクルということで、発電に利用できるというメリットがある。このように、分別には多くのデメリットがあるが、デメリットだけが増えすぎないように、今回の設問は、分別収集を行う、または行わない、そのどちらかに誘導するような意図を含めない前提で、厳選、集約して設定している。ただし、設問の削除や追加、メリットとしての選択肢の補充などについては、皆様のご意見を反映して調整したいと考えている。また、保管場所についても課題があることは認識している。プラスチックは、重量は軽くてもかさばるため、月単位で収集するとなると、トレイやナイロン袋を長期間保管する必要があり、集合住宅などでは負担となる。このため、他の自治体の例を参考に週単位での分別収集の方が適していると考えている。以上を踏まえ、デメリットについての選択肢を8つに集約しているが、追加すべき項目や設問の修正などについてご意見をいただければ、反映して改善していきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>姫路市に住んでいた時は、粗大ごみの日が月に1回あり、置かれているかごの中に分けずに全て捨てていた。プラスチックの分別収集を積極的に行いたいわけではないのであれば、アンケートの最後に、ごみの分別全般についての意見、リクエストなどを募ってはどうかと思う。</p>
<p>(会長)</p>	<p>リクエストというのは最後の問26の部分か。</p>
<p>(委員)</p>	<p>プラスチック分別だけではなく、ごみの分別全般に関する市民の意見ということで。</p>
<p>(会長)</p>	<p>細かい事項をすべて設問に盛り込むと、アンケート用紙が長くなり、回答者の負担が大きくなってしまう。そのため、各設問については「その他・具体的に記入」の形式に変更し、自由記述で意見を記入できる形で進めていただければと考えている。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>意見をいただいたので、問26の設問を、ごみ減量化全般に関して意見があればという表現に変え、プラスチック分別について回答いただけなかった意見についても賜りたいと思う。</p>
<p>(会長)</p>	<p>他に何かご意見があれば、事務局の方に後ほど回答していただくこととする。専門家のご助言及び委員の皆様のご意見をいただいたことで、アンケートが市民の目線に立った、より良いものになったと思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(1) 報告事項</p>

<p>(会長) (事務局)</p>	<p>一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化目標の進捗状況について</p> <p>&lt;事務局説明&gt; 資料5 ごみ減量・資源化目標の進捗状況関係資料</p> <p>資料4は以上の説明の詳細なのか。 資料4については、令和6年度のごみの組成調査の結果であり、燃やすごみにおけるプラスチック類の割合を示す参考資料となる。</p> <p>4 その他 事務局より連絡事項</p>
-----------------------	---